

〈入試科目の見方〉

公募推薦入試のみ受験の場合は、各入試科目の「公募推薦」の欄についている◎が受験科目になります。また、公募推薦入試と給費生入試を同時出願する場合は「給費生」の欄の◎が受験科目になります。

サウンドプロデュースコース

| 試験科目 | 内容 | 注記 | A O | 給 費 生 | 公 募 推 薦 | 一 般 期 | 一 般 後 期 |
|------|---|--|--------|-------------|------------------|-------------|------------------|
| 1 | 主科実技課題 以下の(1)および(2)の両方を受験する (1) 作品提出 Audio CDあるいはMDに録音した自作品を出願時に1曲提出（編曲の場合は原曲名、作曲者名を明記すること。MDの場合、録音モードはSPとする）。 (2) 演奏 以下の(a)～(h)のいずれかによる自由曲1曲（ポピュラー曲が望ましい）を演奏する (a)ピアノ (b)ギター (c)ベース (d)サクソフォーン (e)トランペット (f)トロンボーン (g)ドラムス (h)ヴォーカル ※(2)の演奏に関しては、入学後に主専攻とする演奏実技で受験すること。 | ※(2)の演奏については、暗譜でなくてもよい。ピアノ、ドラムセット等大型楽器以外は各自持参すること。 ※(2)の演奏で(a)(b)(c)(d)(e)(f)(g)を選択の場合は、ソロ演奏または音源による伴奏付き。音源の種類は、CDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。 ※(2)の演奏で(h)を選択の場合は、アカペラまたは伴奏付き。伴奏の種類は、ピアノ伴奏または音源による伴奏とする。ピアノ伴奏の場合は伴奏譜を、音源による伴奏の場合はヴォーカル（主旋律）を抜いたCDまたはMD（録音モードはSPとする）を出願時に提出。ただし、ピアノまたはギターによる弾き語りも可。マイクの使用は不可。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 2 | 音楽理論 以下の(1)または(2)のいずれかを選択する (1) 楽典（筆記試験60分） (2) ポピュラー音楽理論（筆記試験60分。インターバル（音程）、調号とスケール、コードネーム、移調） | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 3 | 主科面接 | ※主科実技に対する試問を含む。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 4 | AO面接 | ※AO面接は主科面接の中で行う。 | ◎ | | | | |
| 5 | 給費生作文 指定する作曲家のうち一人を選び、その伝記を読んで、試験当日に課題作文を書く。伝記は単行本に限り、辞書・辞典類の項目は認めない。当日参照不可。／60分 詳細は●ページに記載。 | | | ◎ | | | |
| 6 | 給費生面接 | | | ◎ | | | |
| 7 | 一般科目 A. 本学で行う以下の一般科目(a)～(c)の中から1科目を選択して受験（45分） (a) 英語（Ⅰ・Ⅱ） (b) 国語（国語総合、国語表現Ⅰ、ただし古文・漢文を除く） (c) 数学Ⅰ | | | | | | ◎ |
| | B. 大学入試センター試験の成績を利用する 以下の(a)～(f)の中から2教科2科目を選択 (a) 国語 (b) 地理歴史 (c) 公民 (d) 数学 (e) 理科 (f) 外国語 | ※「国語」「地歴」「公民」「数学」「理科」「外国語」について3教科・3科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用。判定の際、各科目毎100点満点に換算。合否判定に使用できる科目の詳細については38ページを参照。 | | | | | ◎ |

- 作曲コース
- デジタルミュージックコース
- 指揮コース
- サウンドテクノロジーコース
- ピアノ演奏家コース
- ピアノ指導者コース
- ピアノ音楽コース
- オルガンコース
- 電子オルガンコース
- 弦響打楽器コース
- ジャズコース
- ポピュラー音楽コース
- 声楽コース
- アートマネジメントコース
- 舞台スタッフコース
- 音楽療法コース
- ミュージカルコース
- バレエコース